

三二六三番

こもりくの 泊瀬はつせの川かはの 上かみつ瀬せに い杭くひを打うち  
 下しもつ瀬せに ま杭くひを打うち い杭くひには 鏡かがみを掛かけ  
 ま杭くひには ま玉たまを掛かけ ま玉たまなす 我が思おもふ妹いもも  
 鏡かがみなす 我が思おもふ妹いもも ありといはばこそ 国くにに  
 も 家いえにも行ゆかめ 誰だれが故ゆゑか行いかむ

反歌はんか

三二六四番

年渡としわたる ままでにも人ひとは ありといふを 何い時つの間ま  
 にそも 我が恋あひにける

或書あるふみの反歌はんかに曰いはく

三二六五番

世よの中なかを 憂うしと思おもひて 家いへ出でせし 我われや何なににか  
 かへりてならむ